

国境なき患者

メディカルツーリズム(医療観光)は保険会社と患者の両方にとって大幅な節約となるにもかかわらず、ビジネスの見通しは弱含み



美鼻にしたい?
心臓バイパス手術?
プールでのんびり?
アジアでは医療観光が成長中

バンコクの5つ星ホテル・ミュージズのラウンジバー。ハッピーアワーでカクテルのおかわりを楽しむオーストラリア人女性にタイ訪問理由を尋ねると、はきはきと答えが返ってきました。「ショッピングと、あと歯科治療よ。」

この女性の28歳の娘さんは、歯が透けて脆くなってしまう症状があるのですが、ブリスベンで治療をすると1万豪ドル(7,200ドル)もするのです。それならば、同じお金をかけて母娘でビジネスクラスでバンコクに飛び、高級ホテルに5泊して、ホテル近くのオーストラリアにひけをとらない歯科クリニックで治療を受けた方がよいというわけです。「それでもお釣りがくるぐらい。それで買い物代が賄えちゃうわね」と笑いながら話してくれました。

これは国際医療観光のひとつコマです。先進国で医療費が高騰し、格安航空が拡大し、国境を越えて医師の育成が行われるようになる中、医療観光が盛んとなっています。タイは外国人の間で民間医療機関の質が高い、ビザ取得が容易、物価が安いと評価され、過去20年に腹部リダクションや心臓バイパス、性別適合手術まであらゆる治療において、人気の行き先となりました。

タイにある東南アジア最大の民間病院「バムルンロード・インターナショナル」の前CEOであるカーティス・シュレーダー氏は医療産業が新たな局面に入りつつあると見ています。現在はバンコクを中心街で国際医療コンサルティング会社「インターメディカ」を経営する同氏は、「投資呼び込みの時期は終わり、市場は円熟期を迎え、第2ラウンドに入りました」と言います。

インターネットの普及がさらに進み、保険料や患者の自己負担が値上がりする中、患者は医療サービス提供者に対するコントロールを拡大したいと考えるようになってシュレーダー氏は予想しています。「近い将来、医療についてもトリップアドバイザーのようなサービスが出てくるでしょう。患者さんは価格以外の面も検討するようになっていきます。したがって、海外の安くて品質の高いサービスをさらに重視するようになるでしょう」

休暇付き美容整形手術

バムルンロード・インターナショナルは医療観光の看板施設です。5つ星ホテルのような外観に、それにふさわしいサービス。21室のVIPスイートを備え、日本食レストラン、マクドナルドが入っており、スターバックスには軽食を買い求める人々の列ができています。病院には一般・専門外科設備のある手術室19室が整備されており、医師・歯科医師数1,200名のうち200名以上が米国認定医です。競合するサミティヴェート病院やパヤタイ・インターナショナル、バンコク病院と同じく、同病院の最大のセールスポイントは値段と品質です。価格1万9,000ドルの冠動脈バイパス手術のパッケージは、米国で無保険の患者が同じ手術を受ければ少なくとも8万ドルはかかります。

しかし、同病院の医療観光での成功は偶然の産物でした。シュレーダー氏は1996年後半に12階建ての病院をリニューアルし、580床の病院をオープンしました。開業時に6,000万ドルの負債を抱えたところに、1997年にアジア通貨危機が起こり、タイ・バーツが暴落し、「一夜で負債が倍増し、潜在市場が半減してしまいました」(シュレーダー氏)。

危機に苦しむ中間層は、公的医療制度の利用にシフトしてしまい、バムルンロードといった民間病院は稼働率が低下しました。そこで生き残りのため、自国よりもコストパフォーマンスの高い治療や手術を求める近隣諸国の外国人をターゲットにするようになりました。

このような経緯もあり、シュレーダー氏は「医療観光」という言葉は誤解を招くとの違和感を隠しません。「真剣に治療を受けにくる患者さんは、ビーチへの距離など尋ねません。良好なインフラが整備された環境で、質の高い治療を正当な価格で受けられるから来ているのです」。

統計の粉飾

タイの医療観光が本格的に急成長したのは2001年の米国同時多発テロ事件後です。欧米のビザ発給要件が厳格化されたことにより、アラブ諸国の人々は東へ7時間のフライトで行けるバンコクを選ぶようになりました。現在、バムルンロード・インターナショナルにはイスラム教徒向け祈祷室から、ハラール認証を取得した厨房が整備されています。150人以上いる通訳の多くはアラビア語圏出身であり、現在最も重要な市場の一つである湾岸アラブ諸国からの患者に対応しています。

同病院の年間受診者数は合計110万人にのぼり、うち52万人は他国からの受診者です。2013年の収益は4億7,700万ドルとなっています。しかし、世界の医療観光に関する信頼性の高いデータを入手することは難しく、あっても誇張されていることがしばしばです。

デロイトは2008年、米国からの医療ツーリスト数は2012年までに1,000万人に達し、開発途上国に210億ドルをもたらすと予測しました。しかし、米国人のパスポート保有率の低さを考えると、これはやや強気過ぎる予測でした。翌年の同予測では、これが160万人と大幅に下方修正されました。

ロンドン大学衛生熱帯医学大学院の医療政策・制度専攻のジョハンナ・ヘインフェルド上級講師は「この手の予測は常に需要を過剰評価しがち」と指摘しています。

2010年に同氏がティナコーン・ノリーノリチャード・スミスと行った調査では、タイ病院を訪れた医療ツーリスト数は16万7,000人にすぎませんでした。これはデロイトやタイ政府の推計を大きく下回る数値です。例えば、タイ商務省は2006年にタイを訪れた医療ツーリスト数を推定120万人としています。

マレーシアも医療観光のサクセスストーリーが誇張されがちな国です。同国保健省によると2015年の医療ツーリスト数は85万人で2億3,000億ドルの収益となっていますが、ヘインフェルド氏は正当な理由から、こうした推定値を疑問視しています。

問題は算定方法にあります。例えば、2015年にタイを訪れたツーリストの数は3,000万人となっています。治療が主目的の人はこのごく一部に過ぎないにもかかわらず、タイでは受診からX線検査やCTスキャン、手術まで、医療機関の利用を1件ずつ別個にカウントしているのです。この算定方法では、1人の患者が1回の滞在で20件もの治療を受けたことにもなりえます。このような「統計の粉飾」によって医療ツーリストの数が大幅につり上げられているのです。

ヘインフェルド氏は、「タイにおける医療観光は宣伝されている規模よりもかなり小さく、同国の医療制度への影響も限定的」と考えています。また、タイだけでなく他国においても、国際医療観光の旗振り役が主張するような短期的な成長は考えにくいと言います。「大半の患者は自国、あるいは少なくとも近隣諸国で治療を受けたいと考えているからです。」法制度が異なるため、医療過誤が発生した場合、患者側に現地で訴訟を起こす意向がない限り、補償を受けられる可能性が極めて低いといった深刻な問題もあります。患者が自国に戻れば、継続的な治療を受けることもできません。

シュレーダー氏は、バムルンロード・インターナショナルなどの病院の成功からも、医療観光は顧客にとって価値ある提案ではあるが、まだ本格的な成長には至っていないと考えています。そして同病院の収益のうち、国外からの分が占める割合は1990年代末の9%から現在は56%まで拡大したと指摘しています。「医療観光は実態のあるものであり、チャンスはそこにあります。」同氏は政府機関の統計数値が誇張されている可能性を認めつつも、「同院では少なくとも自分が退職した2010年まで、医療ツーリスト数は1回の外来受診または入院を1人と算定していました」と述べています。

足踏みはしない

マレーシアやインド、韓国といった国々がタイの後に続く一方、カンボジアは質の高い歯科治療が世界で最も安い国として売り込みを図っています。WHOによると、世界全体で50カ国が医療観光に取り組んでおり、インドとシンガポール、タイはアジアの医療観光市場の90%を占めています。

国際医療保険を提供するアリアンツ・ワールドワイド・ケアのステイブ・コンウェイ アジア太平洋地区ゼネラルマネージャー(シンガポール)は、保険会社が医療観光の推進役になれると言います。「保険料は現在年間6~15%で上昇しています。保険事業者のコスト削減において

医療観光は一つの選択肢といえます。」

これを示す一例が、上海のある加入者です。前十字靱帯の治療が必要となりましたが、自国の病院から5万8,000ドルの費用を要求されました。上海における同治療の給付金水準は4万ドルと査定されているため、残り1万8,000ドルが加入者の自己負担となります。一方、あるバンコクの医療機関は、2名分のビジネスクラス航空券、手術代、そして10日分の宿泊費を含めて1万8,000ドルで提供していました。これは保険で100%カバーできる金額です。「その加入者様がどちらを選んだかは容易に想像できるでしょう。これは皆にとってウィン・ウインの選択肢なのです」(コンウェイ氏)

また同氏は、東南アジアを訪れる医療ツーリストの多くはアジア地域内の開発途上国から来ていると説明します。そうした国では経済成長により所得が増えても、医療インフラは立ち後れているためです。インドネシア人の国外における医療費は年間115億ドルにのぼるとされ、その行き先の大部分はマレーシアです。マレーシアは豚由来品が含まれる医薬品は避けるなど、ハラールの規則に従う国です。一方、自国ですぐに受けられない治療のための行き先として、ラオスやカンボジア、ベトナムの人々はタイを、また中国人はシンガポールやタイを好みます。コンウェイ氏によると、文化的親和性は考慮されるポイントですが、最も重要なのは質を求めての渡航だと言います。医療ツーリストは医薬品や治療、先端技術を求めており、「欧米人が美容整形を求める一方、中国人にとっては高い質の医療を受けるための選択肢なのです。この傾向はそうすぐには変わらないでしょう」

トルコ人の帰省

タイから遙か西のトルコは有望な医療観光国です。同国保健省は、2023年には同国を訪れる医療ツーリストの数が200万人に増加すると見込んでいます。患者の多くはイラクやリビアからの人々ですが、ドイツから戻ったトルコ人労働者も相当規模の市場となっています。アリアンツ・トルコは越境型医療保険の改良を図っています。「ドイツで働くトルコ人の多くは休暇を自国で過ごします。アリアンツ・トルコにおける医療保険請求、保健医療サービス提供、契約医療機関管理責任者を務めるオクタイ・アタイは、「当社グループのトルコとドイツでの保険を統合すれば、トルコでの一時帰国中に治療を受ける場合のコストが両方で削減可能となります」と説明します。

タイ滞在中の医療保険

アリアンツ・グローバルアシスタンス(AGA)は、タイで外国人が治療中に不慮の合併症(血腫や内外部感染など)が発生した場合の保険適用について、規制当局の承認手続きを行っている最中です。AGAタイのステイプ・ワトキンスCEOは、推定年間90万人とされるタイの医療ツーリストのうち50万人を中長期的に顧客として取り込みたいと意気込んでいます。

【ご留意事項】

- 本資料は、アリアンツ・グローバル・インベスターズ・ジャパン(以下、当社)のグループ会社であるAllianz SEが作成したProject Mを当社が翻訳したものです。本資料の取り扱いは御社内限りでお願いいたします。
- 本資料は、金融について情報を提供するものであり、当社の戦略等の勧誘を行うものではありません
- 本資料の内容には正確を期していますが、必ずしもその完全性をAllianz SE及び当社が保証するものではありません
- 本資料には将来の市場の見通し等に関する記述が含まれている場合がありますが、それらは資料作成時における当社またはAllianz SEの見解であり、将来の動向や結果を保証するものではありません
- 本資料に記載されている内容は既に変更されている場合があります、また、予告なく変更される場合があります
- 最終的な投資の意思決定は、商品説明資料等をよくお読みの上、お客様ご自身の判断と責任において行ってください
- 本資料には、当社がAllianz SEから対外秘扱いで入手した情報が含まれていますので、Allianz SEまたは当社の事前の承諾なく第三者に開示すること、当該資料の一部または全部の使用、複製、転用、配布等をご遠慮ください

アリアンツ・グローバル・インベスターズ・ジャパン株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第424号
一般社団法人日本投資顧問業協会 加入
一般社団法人投資信託協会 加入